

## 1. 第1回国際シンポジウムの開催

新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」の最初の国際シンポジウムが2009年7月9～10日にスラブ研究センターで開催されます。テーマは「地域大国と持続的発展の可能性」です。ロシア、中国、インドおよびその他の地域大国が、今後国際社会のなかでどのような位置を占めていくのか、現在の「地域大国としての地位」は今後も持続可能であるのかを探ろうとするものです。暫定的なプログラムは、新学術領域研究のHPに近々発表されます。具体的には、この「持続可能性」は、マクロ経済、環境、エネルギー、格差と貧困という4つの基本視角から検討されることとなります。シンポジウムにおける議論によって、各国がこれら4つの領域で抱える諸問題の共通性と特殊性が明らかになるとともに、地球規模でのそれらの問題の解決の糸口も見出されるものと期待されます。さらに、国境問題に関するセッションも合わせて開催されます。暫定的なプログラムは以下のとおりです。[上垣彰（組織委員長）]

新学術領域研究第1回国際シンポジウム「地域大国と持続的発展の可能性」

The First International Symposium of Comparative Research on Major Regional Powers in Eurasia  
The Elusive Balance: Regional Powers and the Search for Sustainable Development

セッション1—経済改革とマクロ経済

Economic Reforms and Macro Economic Performance

報告者 SATO Takahiro (Kobe University), UEGAKI Akira (Seinan Gakuin University), Sudip Ranjan BASU (UNCTAD, UN, Geneva)

セッション2—環境の政治学：「京都」後の地球温暖化

The Politics of the Environment: Global Warming after Kyoto

報告者 KAMEYAMA Yasuko (National Institute of Environment, Japan), PANG Jun (Department of Environmental Economics and Management, Renmin University) 他1名

セッション3—エネルギー安全保障を求めて

Searching for Energy Security

報告者 HORII Nobuhiro (Kyushu University) 他2名

セッション4—引き裂かれたユーラシア：作られた国境をめぐって

Artificial Boundaries: The Broken Heart of Eurasia

報告者 Mushtaq KAW(University of Kashmir)他2名

セッション5—社会的格差と貧困

Social Disparity and Poverty

報告者 TAKEDA Yuka (Waseda University), IMAI Katsushi (Manchester University), Ruslan YEMTSOV (World Bank)

セッション6—歴史的視点から

Historical Perspectives

報告者 Vladimir POPOV (New Economic School, Moscow and Carlton University), SAITO Osamu (Hitotsubashi University)

## 2. プロジェクト研究員の採用

本領域研究では、若手研究者の育成を目的として、プロジェクト研究員の公募を行いましたところ、37名の応募がありました。厳正な審査を経て選考された以下の5名の方が、4月1日から各大学で勤務しています。

氏名	博士号取得大学院	勤務地	主たる 研究協力班
小松 久恵 コマツ ヒサエ	Jawaharlal Nehru University (India)	大阪大学世界言語研究センター	第5班
住家 正芳 スミカ マサヨシ	東京大学	東京大学大学院総合文化研究科	第6班
任 哲 ニン テツ	早稲田大学	早稲田大学現代中国研究所	第2班
星野 真 ホシノ マサシ	神戸大学	北海道大学スラブ研究センター	第3班
黛 秋津 マユズミ アキツ	東京大学	東京大学大学院総合文化研究科	第4班

### 3. 第1回全体集会開催される

本領域研究の第1回の全体集会在、予定通り3月4日に北海道大学で開催されました。メンバーのほぼ8割の方に参加していただきました。メインイベントの猪口孝(中央大学)、長崎暢子(龍谷大学)、沼野充義(東京大学)の3先生による『「ユーラシア地域大国の比較研究」に期待すること』についてのご講演は、本領域研究のなかで何をやらなければならないかについて、あらためて考える機会を与えてくれるものでした。このご講演の内容は、本領域研究のディスカッション・ペーパー『比較地域大国論集』の創刊号に掲載する予定です。

### 4. スラブ研究センターとブルッキングス研究所の共催シンポジウム

5月8日に北海道大学スラブ研究センターとブルッキングス研究所北東アジア政策研究センターの共催シンポ「北東アジアを越えた日米同盟」(仮題)がワシントンDCで開催される予定です。ワシントンにおける日本の存在感は、これまで中国や朝鮮半島を中心とした北東アジア政策コミュニティに限られており、この企画は米国の「知らない」日本の地域研究の実績、これまでの日本の対外貢献を彼らに伝え、世界における日米関係のあり方を探ろうという野心的な取り組みです。シンポは多くの関連団体からの支援を受けて実施されますが、新学術第1班の後援もそのなかに含まれています。今後の大国比較研究にも大いに関係する催しとなりますので、ご関心のある方はぜひワシントンまでご参集ください。米国側パネリストは調整中ですが、リチャード・ブッシュを始め、ブルッキングスの蒼々たるメンバーが研究地域を越えて集結します。日本側のスピーカーは第1部「中国とロシア」で中居良文(学習院大)、兵頭慎二(防衛研究所)、第2部「中央アジアと南アジア」で宇山智彦(スラブ研)、吉田修(広島大)、第3部「中東欧と中東」で家田修(スラブ研)、酒井啓子(東京外大)となります。なお、第1班の岩下明裕(スラブ研)が全体のコーディネートをしています。プログラムは確定され次第、ホームページ上にアップします。ご関心をお持ちの方は、第1班のプロジェクト・アシスタントの加藤美保子までご連絡ください([m-kato@slav.hokudai.ac.jp](mailto:m-kato@slav.hokudai.ac.jp))。[岩下明裕]

## 5. 今後の予定

5月8日（金）：スラブ研究センター・ブルッキングス研究所共催シンポジウム（於ワシントンDC）

5月29日（金）～31日（日）：アジア世界史学会第1回国際会議（於大阪大学中之島センター）第4班参加

7月9日（木）～10日（金）：新学術領域研究第1回国際シンポジウム（於北海道大学）第3班主催

7月11日（土）：新学術領域研究第2回全体集会（於北海道大学）

12月12日（土）～13日（日）：新学術領域研究第2回国際シンポジウム（於早稲田大学）第2班主催

## 6. 各班の研究會情報

第2班（内政）

唐亮氏（研究代表者）の所属機関が4月1日付で早稲田大学政経学部に移りました。

平成21年度政治班第1回研究会 「体制移行の比較研究」との合同研究会

日時：4月26日（日）12：00～16：30

場所：早稲田大学早稲田41-31号館 2階 第2会議室

(<http://www.china-waseda.jp/wiccs/contact.html>)

1) 近藤則夫・アジア経済研究所南アジア研究グループ長

「インドの民主主義体制の能力： 政党制と連邦制」

2) 間 寧・アジア経済研究所中東研究グループ長

「トルコ：円滑移行，定着不全」

3) 今後の研究活動に関する打合せ

(班員のみによる会合のため一般公開はしません)

#### 第4班（帝国論）

日時：5月25日（月）18:00～20:30

場所：東京（詳しくは未定）

報告（仮題）：

黛秋津（第4班プロジェクト研究員）「18世紀後半のワラキア・モルドヴァ両公国をめぐる国際関係の変容：西欧・ロシア・オスマン帝国の狭間で」

野田仁（早稲田大学イスラーム地域研究機構研究助手）「ロシア帝国の東方国境とカザフ草原：清朝の多民族支配との比較から」

他の班の方も参加できますが、夕食の準備の都合上、できるだけ早く宇山までご連絡ください。

#### アジア世界史学会第1回国際会議の第4班企画セッション

日時：5月31日（日）9:30～12:00

場所：大阪大学中之島センター

セッションタイトル：Empire in Modernity: A Comparative Perspective

詳細はHP参照（<http://www.let.osaka-u.ac.jp/seiyousi/AAWH/ja/congress.htm>）

#### 第5班（社会）

3月3日～4日に開催された4・5・6班合同研究会で研究報告をした小松久恵氏のレジュメ、および大石高志・小松久恵両氏のインド出張報告書がHP（第5班の「研究成果・活動報告」）に掲載されています。

#### 第1回「国家の輪郭と越境」研究会

日時：4月28日（火）15:00～17:00

場所：大阪大学箕面キャンパス 総合研究棟6階「国家の輪郭と越境」プロジェクトルーム（<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/accessmap.html>）

研究会題目：『Mother India』を読む

詳細情報はHP参照

問い合わせ先：「国家の輪郭と越境」プロジェクト事務局  
（[dai5han@world-lang.osaka-u.ac.jp](mailto:dai5han@world-lang.osaka-u.ac.jp)）

#### 第6班（文化）

3月3日～4日に開催された4・5・6班合同研究会で研究報告をした村田雄二郎・井上貴子両氏のレジュメ，および井上貴子氏のインド出張報告書がHP（第6班の「研究成果・活動報告」）に掲載されています。

#### 7. 新しい事務局体制

4月1日から新学術領域研究の事務局は，越野剛（プロジェクト・マネージャー，特任研究員），後藤正憲（総括班プロジェクト・アシスタント，特任研究員），小原由美子（事務補佐員）の3人体制となっています。

発行者：田畑伸一郎（領域代表者）

事務局：越野剛，後藤正憲，小原由美子

電 話 011-706-4809

ファクス 011-706-4952

メー ル [rp@slav.hokudai.ac.jp](mailto:rp@slav.hokudai.ac.jp)

H P <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/index.html>

住 所 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目  
北海道大学スラブ研究センター